

## 渡辺復興大臣福島県訪問ぶら下がり会見録

(平成30年10月11日(木) 16:44～16:50於) 福島県いわき市)

### 1. 発言要旨

本日は月命日に当たります。7年7か月前、あの大地震と津波により、かけがえのない多くの命が失われました。今なお、2,500名以上の方々が行方不明となっております。犠牲となられた方々に、そして御遺族の皆様方に対しまして、これよりお悔やみを申し上げる次第でございます。

本日、福島県警はこの浜通りにおいて、約140名体制で行方不明になっている方々の捜索を行っております。関係する県警の皆様方に心から感謝を申し上げたいと思います。

さて、本日は、新地町、相馬市、南相馬市、浪江町、大熊町、富岡町、楡葉町、広野町、いわき市、双葉町の10市町の皆様方に対しまして就任の御挨拶をさせていただき、意見交換をしたところでございます。

市長や町長からは、主に、ポスト復興庁に関する御要望、体制や財源であります。また子供、若い世代が戻ってくるような取組の必要性、特定復興再生拠点の区域外に関する御要望、技術職員などの専門職員の不足に関する要望、イノベーション・コースト構想の推進に関する御要望、避難されている方々への心のケアなどの支援に関する要望、こういった要望がありました。

本日伺った地元の課題や要望をしっかりと受け止めながら、被災者に寄り添いながら、一日も早い被災地の復興に向けて全力で頑張っている所存でございます。

### 2. 質疑応答

(問) 昨日と今日、原発事故の影響を大きく受けた自治体を回ってみたいの印象をお願いします。

(答) 一番私が印象に残ったのは、原発事故によってふるさとに帰れない人たちが大勢いらっしゃる。しかもその大勢いらっしゃるわけですけれども、その人たちにどのような形でふるさとに戻ってきてもらったらいいか、そのためにはいろいろな環境整備が必要ではないか、私はそのように感じたところであります。

特に最後の双葉町長さんでございますけれども、地域の被災されて分散されている方々が全国各地に散らばっている、そういった状況の中で、町長さん自らが出向いて行って町民の皆さん方とコミュニケーションを図っている姿、こういった姿を見て、本当にご苦労されている、早く復興できればいいなという感じをいたしました。

(問) ポスト復興庁の要望あったかと思えますけども、改めて首長と懇談してみて、ポスト復興庁への考え、大臣のお考え聞かせてください。

(答) この問題には様々な課題がございます。

したがって、これからしっかりとですね、取組について検証していかなければなりません。そして、その方向性については、今後しっかりとまた検討させていただきたい、そのように思っております。

(問) 先程の発言にもありましたけれども、特定復興拠点以外も含めて、帰還困難地域の除染も含めて、帰還困難地域エリア全体を復興させていくというお考えは改めて間違いないということでしょうか。

(答) まずはですね、大事なことは、区域内をしっかりと除染し、帰還できる体制をつくっていくことが大変重要だというふうに思います。

その後についてはですね、また今後の検討としていきたいというふうに思っております。

(問) 今日、大臣就任後初めて浜通り地域を順番に見てこられたと思うんですけども、まだ帰還ができない地域、車を入れない地域等も通られたと思うんですけども、純粹にその辺りをめぐった大臣の所感はいかがでしょう。

(答) 私は実は、この福島について、発災直後にも訪問させていただいたことがございます。

その状況の中で、復興をなし遂げている地域もありますが、時間がとまったままの地域もある、まだまだ地域によっていろいろな差があるということを経、私自身もこの目で確認させていただきました。したがって、一律に何かできるかというのではなく、それぞれの地域によって寄り添っていくことが大変重要だな、そういうことを改めて感じさせていただきました。

(以 上)